

第3分科会【英語】

自ら思考判断し、意見を発信する力の育成を目指して

報告者▶ 光木 宏（京都府立園部高等学校教諭）

報告者▶ 田中 容子（京都大学大学院教育学研究科特任教授）

コーディネーター▶ 藤田 五樹（京都府教育委員会高校教育課指導主事）

本分科会では、京都府立園部高等学校が逆向き設計論を土台として取り組んでいるパフォーマンス課題及びルーブリックを軸にしたパフォーマンス評価の実践報告をもとに、新学習指導要領にて育成を目指す自ら思考判断し、自分の考えを発信する力の育成法について定義し、参加者と意見交流をする。

概 略

初めにコーディネーターが、本分科会の導入として、次期高等学校学習指導要領の外国語科改訂の趣旨及び要点を確認し、現行学習指導要領との目標の違いを提示した。そして次期学習指導要領の目標を具現化するにはパフォーマンス課題・評価の活用が有効であると定義づけた。

続いて、光木教諭より勤務校である園部高等学校におけるパフォーマンス課題・評価の実践報告がなされた。すべての生徒が参加できる授業作りという同校英語教育の目標を明確にし、①目標の可視化、②生徒のつまずきに学ぶ授業展開、③パフォーマンス評価の活用という3観点について説明がなされた。同校では英語科教員全員で年度末、卒業時までには生徒につけさせたい英語力を共有し、その目標から指導内容を逆算する「逆向き設計」で指導計画を作成していることと、幅広い学力差や様々な学習歴をもつ生徒が同校には在籍するという特性から、すべての生徒が主体的に授業に参加できるようにするために「学び直し」期間を設定していることが強調された。

「学び直し」期間で使用する数多くのワークシートを提示しながら、この期間が後に続くパフォーマンス課題・評価の活動の効果的な「橋渡し」となっていることが確認された。

引き続き、同校が行っているパフォーマンス課題・評価が各学年の課題例とともに紹介された。園部高校のパフォーマンス課題は、①「伝えたい」という気持ちを育むために「自分」について語ること、②力の伸びを実感させるために学年間で類似の課題を実施すること、③単に英語を学ぶのではなく生徒の意欲をかき立てるために「心に残る教材」を選ぶ、という観点で設定されている。生徒が主体的に学び、自らの学びを深め、学んだことをパフォーマンス課題により表現するというサイクルを通じて、生徒の英語力を高めることが同校英語教育の核となっている。パフォーマンス課題・評価を通じてペーパーテストではわからない生徒の姿が見え、生徒の力を多面的に評価できるという成果につながっている。その成果とともに、指導・評価に多大な時間を要するという、生徒のパフォーマンスの実情に合わせてルーブリックを常に見直す必要があるという課題も提示された。

光木教諭の発表に続き、田中特任教授が園部高校において実践されている「Backward Design 逆
向き設計」によるパフォーマンス課題・評価について発表した。「逆向き設計」論とは、①修了時
をイメージして求められている結果（目標）を明確にして、②承認できる証拠（評価方法）を決
定し、③学習経験と指導を計画する、という手順で指導法を設計することである。園部高校では
この「逆向き設計」論を基に、育てたい生徒像を明確にして、多様なパフォーマンス課題を実践
し多角的な評価を実践している。目標の明確化のために「SONOBEアセスメントグリッド」
という評価法を設定している。「SONOBEアセスメントグリッド」の特徴は、「～できる」と
いう記述語の内容が生徒の生活を舞台としているということ、学習者のつまずきに配慮した授業
者への気づきをも盛り込んでいること、そして Reading 領域レベル4・5・6においては「辞書
があれば」という条件を付与していることが田中特任教授より説明された。

園部高校では学習困難層への指導の在り方に着目し、生徒の実態から学びとった知見を教材作
成と授業方針に生かしている。また、「逆向き設計」の実践から認識できた「英語を習得する際の
差は、語彙力と英文構造の理解に必要とされる時間の差である」という観点も、授業方針に生か
している。田中特任教授より学び直し期間及びパフォーマンス課題・評価の活動の中で取り扱う
具体的題材が数多く紹介されるとともに、園部高校が実践する、①目標を共有、②英語学習入門
期によくあるつまずきへの対応、③クラス内の学力差に対応できる授業展開、④習得した英語力
をリアルな文脈で使う場面を設定し評価するパフォーマンス評価の展開について具体的説明がな
された。

全体討論の内容

主に以下の質疑応答がなされた。

- ・「すべてのクラスで同一の教科書を用いることに苦勞することはないか」
→パフォーマンス課題・評価の活動に適した題材を吟味し、生徒の状況に合わせて取り上げる
項目を焦点化して教科書を扱っている。活動を通して目標とする学力に到達できている。ま
た全生徒が同じ教科書を扱うことで、パフォーマンス課題への各クラスのモチベーション維
持に役立っている。
- ・「ループブリックのねらい、扱いについて」
→ループブリックが求める学力の到達目標になっている。到達目標を設定して生徒に提示するこ
とで、生徒にとっても到達点が可視化できる。また、パフォーマンス評価を行った際にルー
プブリックに課題が見つかった場合は、その都度改善していくように心がけている。
- ・「学び直しは文構造理解を学び直すということがねらいか」
→その通りである。英語学習に困難を抱える生徒は、その多くが文構造の理解でつまずいてい
るため、入学時に文構造理解を深めることを目的に学び直し期間を設定している。
- ・「リスニングの指導はどのように行っているのか」
→数多くの音読活動を通して「聴く」力の向上を図っている。
- ・「本フォーラムのテーマは高大連携であるが、高大のつながりという点で何らかの成果はあるの
か」
→パフォーマンス課題・評価の活動を通じて高校入学後、着実に生徒の英語力は伸びている。

難関国立大学・難関私立大学に進学する生徒もおり、その一助を担っている面もあるのではないかと。

・「CAN-DOリストに本校では取り組めているとは言えないのだが、貴校ではどのようにしてこの活動を始めたのか」

→まずは言語活動をどう評価すべきかということを通認識することから始めた。活動にはかなりの困難が予想されたが、これまで覚悟を持って進めてきたつもりである。

到達点と今後の課題

園部高校の活動には「生徒の学ぶ可能性を閉じない」という原理がある。その原理を具体化する形で同校の特徴的なパフォーマンス課題・評価の活動が行われている。分科会参加者にもパフォーマンス課題・評価の具体的手法とともに、同校の考え方がしっかり伝わった。パフォーマンス課題・評価の必要性を感じながらも、具体的な実践に取り組めていない学校にも、パフォーマンス課題・評価の理念と実践法が伝わる有意義な発表になったと思われる。

生徒の実情は学校によって異なるので、さらに多様なパフォーマンス課題・評価の活動を紹介することで、参加された学校の教員が勤務校の実情に合わせて活動を取捨選択できるような形で実践例を提示することも今後は考えていきたい。



スライド 7

学び直しの工夫 ～生徒のつまずきに学ぶ～

『学び直しシート』の活用

- ① 英語と日本語の語順の違いの理解を目標に
- ② 生徒にとって身近な話題を採っている
- ③ 語順理解に集中(語句の意味は与える)

スライド 8

学び直しワークシートの例

英語の語順の基本を押さえよう！
 [だれが | する・です | だれに | どこ | いつ]

1. ヒントを参考にして日本語を英語に直してください。
 ①私は昨夜Mステ (Music Station) を観た。(私は ～を観た Mステを 昨夜)

②私たちは毎日サッカーをします。(私たちは する サッカーを 毎日)

③山本先生はカーンがとても好きだ。(山本先生は 好きだ カーンが とても)

④私たちは毎日お弁当を持ってくる。(私たちは 持ってくる お弁当を 毎日)

⑤私たちは来年台湾を訪れます。(私たちは 訪れます 台湾を 来年)

【ヒント】～を観る watch～ / 昨夜 last night / サッカー soccer / 毎日 everyday / ～が好き like /
 カーン cake / とても very much / ～を持ってくる bring / お弁当 a lunch / ～を訪れる visit /
 台湾 Taiwan / 来年 next year

スライド 9

ワークシートの例

5. I traveled into space three times.

6. Each time I rediscovered my love for the earth.

7. The ISS takes 90 minutes to fly around the earth.

8. For 45 minutes you see the day view,
 and then in the next 45 minutes you see the night view.

スラッシュ (/) ではなく縦線を入れる
 ↓
 苦手な生徒でも英文を目で追って理解できるように

スライド 10

ワークシートの例

「どうせ自分たちは」と感じさせないために...
 ⇒学力差は大きいですが、教科書は全クラス共通
 ・全ての生徒に理解を保証しながら、実際に使ってみる活動を取り入れる。

スライド 11

ワークシートの例

対訳ワークシートLesson 1

Number	Name
Introduction	
1	アサヒ1号が 帰郷した。同じ。
2	窓の外へは 空襲だった。
3	彼は 夢みしていた。
4	卒業旅行までになることを。
27	卒業後
4	彼は初めての恋をした。
1	卒業旅行へ。
Section1	
1	彼は 旅した。卒業旅行の中へ
2	卒業後
3	彼は 旅した。卒業旅行の中へ
4	彼は 旅した。卒業旅行の中へ
5	彼は 旅した。卒業旅行の中へ

スライド 12

ワークシートの例

「理解」から「活用」への橋渡し
 ・英語の語順を常に意識できるように
 ・対訳ワークシートは教科書本文を全て載せる

スライド 13

- 1 園部高校の概要
- 2 園部高校の英語指導
- 3 パフォーマンス評価を用いた効果的な動機付け
- 4 成果と課題

スライド 14

パフォーマンス評価との出会いと英語教育実践

平成18年度～20年度
文部科学省

『SELHi (Super Language High School)』
[特に学習に困難を抱える生徒たちへの指導]

平成21年度～23年度
京都府教育委員会

『「ことばの力」育成プロジェクト』
[パフォーマンス課題(評価)を取り入れた授業実践]

スライド 15

英語科実践研究がめざしてきたこと

こんな生徒を育てたい

- 教科学習に主体的に参加
- 学んだことを深める
- 学んだことで表現する

そのために

パフォーマンス評価を生かす

15

スライド 16

パフォーマンス課題例

1年生

- ・ パートナー紹介
- ・ 尊敬する人を紹介しよう
- ・ 英語スピーチコンテスト
- ・ おすすめの世界遺産を発表
- ・ お気に入りの写真紹介

16

スライド 17

パフォーマンス課題例

2年生

- ・ 日本文化、観光、生活を紹介する冊子を作製(海外研修で配布)
- ・ 研修旅行の感想と改善点
- ・ 英語スピーチコンテスト
- ・ 旅行プランの提案
- ・ 将来の目標を話してみよう

スライド 18

パフォーマンス課題例

3年生

- ・ 自分に影響を与えたものを紹介
- ・ “I Have a Dream”暗唱
- ・ 自分史を書く

スライド 19

パフォーマンス課題の例

《課題1》
 海外研修旅行が終わりました。園部高校では、毎年研修旅行計画を見直しています。今回の海外研修旅行の経験から、今後の研修旅行の計画に対して意見を述べてください。意見には次の2点を必ず入れてください。
 ①体験して一番良かったことや行って一番良かった場所
 ②その理由及び具体的説明
 ※発表時間は1分以内とします。

スライド 20

パフォーマンス課題の例

《課題1》ルーブリック

	(1) 言語	(2) 内容	(3) 態度
3	・ほとんど文法的誤りがない ・それぞれの単語の発音が正しい (特に /f/, /v/, /l/, /r/ のような子音を正しく発音している)	・適切な例を用いており、考えが明確で理解しやすい ・興味深い発表である ・来年度の計画に向けての良い提案がなされている	・しっかりアイコンタクトを取っている ・大きい声ではっきりと話している ・メモを見ずに発表する
2	・一部文法的誤りがある ・一部の単語を誤って発音している	・適切な例が示されておらず、考えが少し不明確で理解しにくい ・まずまずおもしろい発表である ・提案がそれほど良くない	・あまりアイコンタクトを取らない ・声を聞き取るのが少し難しい ・時々メモを見て発表する
1	・多くの文法的誤りがあり、一部は理解できない ・発音がよくない (子音に注意が向けられていない)	・例がほとんどなく、考えが不明確である ・発表が興味深くない ・提案がほとんどないか、まったくない	・ほとんどアイコンタクトを取らない ・声があまり小さく、また不明確である ・ほとんど覚えていない

スライド 21

パフォーマンス課題の作り方

(例) 中高一貫コース第2学年
 Oral Communication (発表)
 「自分の好みや意見を理由をつけて述べるができる。テーマに基づいてまとまったスピーチをできる。」
 ⇒教科書で「モナリザの秘密」についての文章を読み、次の2つに注目する
 ○客観的事実や事物の説明に適した表現形式
 ○作品に対する自分の感想の表現の仕方
 ⇒「名画紹介」自分で好きな絵を選び、クラスメイトに紹介

スライド 22

「名画紹介」指導の手順

- 1時間目: 導入
- 2時間目: 紹介したい作品決定
書籍やインターネットで必要な情報を入力
- 3時間目: 必要な基本情報とどうしても伝えたい内容を選び
原稿作成
- 4時間目: 発表練習
- 5時間目: 発表

スライド 23

ルーブリックの作成

	発表	音声	内容
5	・聞き手の方をしっかりと見ている。 ・反応を見て話すスピードを調整できる。 ・スライドを効果的に使っている。 ・自然な身振りで発表ができていいる。 ・明確な声で聞き取りやすい。	・無理のないスピードで、つまることなく読める。 ・「h, s, b, v, h, f」などの子音を正しく発音している。 ・適切なイントネーションで話せている。	・作品についての基本的な情報がわかりやすく整理されている。 ・作品について印象的な付加情報が盛り込まれている。 ・感想がしっかりと述べられている。 ・聞き手にわかりやすい語句や表現を選んでいる。 ・ <i>when / if / because / that</i> などの接続詞を効果的につかい、まとまりのある文章になっている。
3	・下は向いていないが、聞き手をみるゆとりはない。 ・不自然な間があくことがたびある。 ・棒立ちになっている必要以上に力が抜けている。 ・聞き取る声量である。	・少し早口で、聞き取りにくい。 ・子音や母音をいけようとしているが、うまく発音できていないものがある。 ・実話らしいイントネーションで話しても、まとまりがわからない。	・作品についての基本的な情報が含まれているが、うまく整理されていない。 ・作品についての付加情報が少し入っている。 ・感想が数語で述べられている。 ・理解するのが難しい表現や不自然な表現が何度か出てくる。 ・接続詞を使っているが、誤りが多い。
1	・つねに下や不自然な方向を向いている。 ・内容を思い出せず最後まで発表できない。 ・やる気の感じられない姿勢である。 ・声が小さく聞き取りにくい。	・かなり早口になり、ほとんど聞き取れない。 ・カタカナ読み、ローマ字読みで、英語のように聞こえない。 ・単語が読み方である、またはかなり不自然な発音が出ている。	・作品の基本的な情報ほとんど含まれていない。 ・作品についての付加情報がほとんどない。 ・感想が述べられていない。 ・英語の誤りが多々理解するのが非常に難しい。 ・事実しか使われていない。

スライド 24

園部高校パフォーマンス課題の特徴

《1》「自分」について語る／自分で選ぶ
 尊敬する人／おススメの世界遺産／自分史
 ⇒「やってみた」「伝えたい」という気持ちを生む

《2》類似課題を学年をまたいで実施
 ⇒生徒の力の伸びを実感

《3》「やりがいある課題」「心に残る教材」

スライド 25

園部高校英語スピーチコンテスト

- ◆SELHI指定以前より実施
- ◆現在は京都国際科、普通科SA(発展)
中高一貫の1・2年生対象
- ◆300～600語以上で原稿を作成
- ◆クラス内コンテスト⇒校内コンテスト
- ◆上位2名は京都府英語スピーチコンテストへ

スライド 26

園部高校英語レシテーションコンテスト

- ◆普通科 I 類(当時)生徒からの声で始まった
- ◆現在は普通科SB(標準)の1・2年生対象
- ◆名演説を暗唱
- ◆グループ発表(群読)で取り組みやすく
- ◆クラス内コンテスト⇒校内コンテスト
- ◆最優秀グループは校内実践発表会で発表

スライド 27

成果

- 生徒の力を多面的に評価できる
- 生徒に様々な気づきを
- ペーパーテストではわからない生徒の姿

スライド 28

パフォーマンス課題を終えて(生徒の声)

- 「セヴァンさんがどのように訴えたのかしっかり考えることができた」「大人たちに懸命に訴えているのがわかった」
⇒内容の深まり
- 「2年生の発表(The Great Dictator)はやっぱり難しいし、長くて大変そうだけど、2年生になっても頑張りたい。」
⇒学年を越えた波及効果
パフォーマンス課題が学校の文化に

スライド 29

パフォーマンス課題を終えて(生徒の声)

- 「中学校ではみんなの前で発表したことなんてなかった。自信はなかったけど、発表できてよかった。」
⇒すべての生徒は「できるようになりたい」と思っている
- 「もっとジェスチャーとか工夫を入れたかったけど、覚えるのにいっぱいいっぱいだった。」
⇒全ての生徒は「もっとうまくなりたい」と思っている

スライド 30

教師から見たパフォーマンス課題

- 「これは難しいかも」と思ってもやってみると生徒はしっかりと課題を達成することがわかった。
- 同じ種類の課題を毎年課すことで、生徒の成長が見える。
- 英語が苦手な生徒にも、ペーパーテストで点数が取れない生徒にも英語学習のおもしろさを伝えられる
- 生徒がうまくできなかった
⇒普段の授業、発表までの過程を振り返る機会に

スライド 31

課題

- どのように継続していくか
- ルーブリックの見直し

スライド 1

自ら思考判断し意見を発信する力の育成を目指して
「逆向き設計」と多彩な評価を導入したカリキュラム改革
 園部高校の場合
 田中容子
 (元園部高校指導教諭) 京都大学教育学研究科

スライド 2

1 Backward Design

Figure 1.1
UbD: Stages of Backward Design

```

    graph TD
      A[1. Identify desired results.] --> B[2. Determine acceptable evidence.]
      B --> C[3. Plan learning experiences and instruction.]
    
```

スライド 3

「逆向き設計」論

求められている結果 (目標) を明確にする
 承認できる証拠 (評価方法) を決定する
 学習経験と指導を計画する

理解の6側面
 指導の前に評価方法を計画する

(Wiggins, G. & McTighe, J., *Understanding by Design*, ASCD, 1998/2005, G・ウィギンズ&J・マクタイ、西岡加名恵訳『理解をもたらすカリキュラム設計』日本標準、2012年)

スライド 4

2 Backward Designと英語科実践

育てたい生徒像を明確にして
 → Sonobe Assessment Gridを充実発展
 多角的な評価を実践する
 → 多様なパフォーマンス課題を実践
 2009年～2011年度「ことばの育成プロジェクト」

「逆向き設計」論を基に
 (G・ウィギンズ&J・マクタイ、西岡加名恵訳『理解をもたらすカリキュラム設計』日本標準、2012年)

スライド 5

目標の明確化 (資料p.18)

SONOBEアセスメントグリッド (英語科)

習熟段階	1	2	3	4	5	6
Reading	身近な題材の読解が可能な。	読解課題で書かれた内容を理解し、内容を要約できる。	本文の主題および重要な内容を理解し、内容を要約できる。	本文の主題と重要な内容を理解し、内容を要約できる。	本文の主題と重要な内容を理解し、内容を要約できる。	本文の主題と重要な内容を理解し、内容を要約できる。
Writing	アルファベットの綴りが正しい。	文法的な間違いを省くことができる。	文法的な間違いを省くことができる。	文法的な間違いを省くことができる。	文法的な間違いを省くことができる。	文法的な間違いを省くことができる。
Oral Communication	自分の名前を言える。	簡単な文を使って自己紹介ができる。	自分の町、知っている人などについて話せる。	文法的に正確に話せる。	自分の好みや意見を理由を付けて話せる。	自分の興味のある分野の話題について話せる。

スライド 6

Sonobe Assessment Grid 特徴

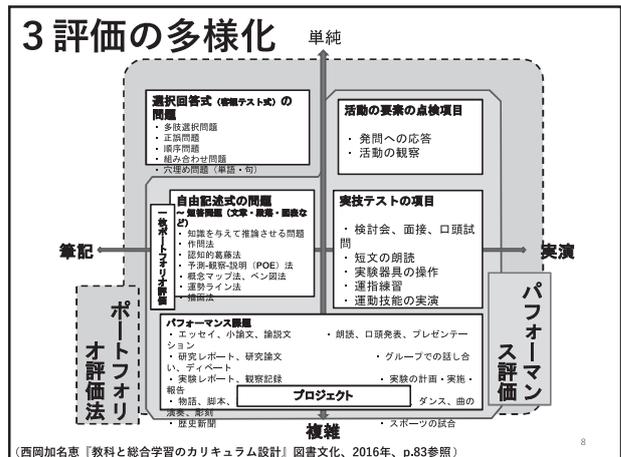
- ◆ 「～できる」という記述語の内容が生徒の生活を舞台としている。
- ◆ 学習者のつまづきに配慮した、授業者への気づきを喚起する内容をも盛り込んでいる。
 レベル3 「英文の主述および後置修飾句をつかめる。…」
 レベル4 「複文構造を理解し、後置修飾節を理解して前から読み進めることができる。…」
- ◆ 「辞書があれば」という条件を付与 (reading領域レベル4・5・6) している。

こんな生徒を育てたい

教科学習に主体的に参加
学んだことを深める
学んだことを表現する

そのために
パフォーマンス評価を生かす

7



4 パフォーマンス課題のつくりかた

(1) パフォーマンス評価とは・・・

- 知識やスキルを使いこなす (活用・応用・総合する) ことを求めるような評価方法 (問題や課題) ← 学力観の転換

(2) パフォーマンス課題とは・・・

- 様々な知識やスキルを総合して使いこなすことを求めるような、複雑な課題。
- 具体的には、論説文やレポート、展示物といった完成作品 (プロダクト) や、スピーチやプレゼンテーション、実験の実施といった実演 (狭義のパフォーマンス) を評価する課題。

(西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、2016年)

9

(3) 理解 (Understanding)

- 洗練された柔軟なやり方で知識とスキルを使える状態
- 理解の6側面 → パフォーマンス
 - 説明する
 - 解釈する
 - 応用する
 - パースペクティブ (俯瞰) を持つ
 - 共感する
 - 自己認識を持つ

永続的理解

- いろいろな場面で役立つ (転移する) 内容
- 大人になっても覚えてほしい理解
- 学問の中核部分 (繰り返し登場する内容)
- 子どもが誤解しやすい内容

(Wiggins, G. & McTighe, J., *Understanding by Design*, ASCD, 1998/2005, G・ウィギンズ&J・マクタイ、西岡加名恵訳「理解をもたらすカリキュラム設計」日本標準、2012年)¹⁰

Cf. 学習科学・認知科学の知見

米国学術研究推進会議編著、森敏昭他訳『授業を変える』北大路書房、2002年 (原者は2000年)

- 学習者が科学的理論を学ぶためには、素朴概念を自ら修正する学習が必要である
- 学習の転移 [以前に学習したことが後の学習に影響を及ぼすこと] を起こすためには、概念的枠組みに基づいて知識を構造化するような深い理解が必要である
- 適応的熟達者 [外部要求に対して柔軟で適応性が高い熟達者] に育てるためには、メタ認知 [自己の認知過程についての認知と知識] の能力を多様な教科の指導を通して高めることが重要である

11

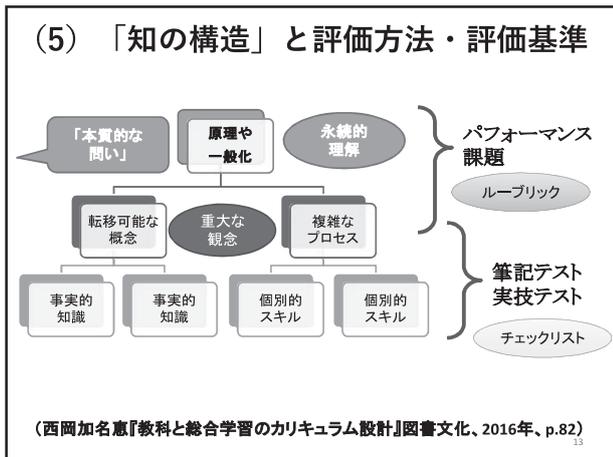
(4) 「真正の評価」論

- 「人が仕事の間や市民生活の間、個人的な生活の間で『試されている』、その文脈を模写したり、シミュレーションしたり」しつつ、評価することを主張
(Wiggins, G., *Educative Assessment*, Jossey-Bass Publishers, 1998)
← 標準テストにもとづく「説明責任」の論調に対抗
- 「真正の学力」:
 - 知識の創出、
 - 訓練された探究
 - 審美的・実利的・個人的な価値

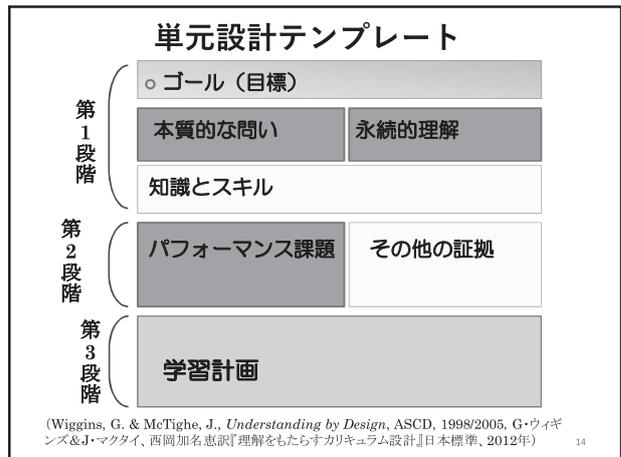
(Newmann, F. & Archbald, D., "The Nature of Authentic Academic Achievement" in Berlak, H. et al., *Toward a New Science of Educational Testing and Assessment*, State University of New York Press, 1992)

12

スライド 13



スライド 14



スライド 15

逆向き設計の実践から見えたこと

英語を習得する際の差は、語彙力と英文構造の理解に必要とされる時間の差である。

授業の方針—じっくり考えて理解することを促す

↓

「学習上に困難を抱えている」ように見えた生徒たちが、英文制作や英語による発表に挑む

↓

英語科学年教科書統一化 (2012年度から)

スライド 16

5. 学習者主体の授業実践

実践の背景—異なる複数のコース
育てたい生徒像を明確化
教科学習に主体的に参加
学んだことを深める
学んだことを表現する
→Sonobe Assessment Gridを充実発展

多様な学習者の評価の保障
→パフォーマンス課題を多様に創造・実践

*「逆向き設計」論を基に
(G・ウィギンズ&J・マクタイ、西岡加名恵訳『理解をもたらすカリキュラム設計』日本標準、2012年)

スライド 17

方針

- ①目標を共有
- ②英語学習入門期にありがちなつまづきへの対応
- ③クラス内の学力差に対応できる授業
- ④習得した英語力をリアルな文脈で使う場面を設定し評価できる (パフォーマンス評価)

スライド 18

「わかる」授業の展開—つまづきの分析から

◆ 日本語の語順と英語の語順の混同
テレビを見るのが好きです。
→TV watching like.

a cat by me →ねこのそばの私

I left for school after it stopped raining.
→私が学校へ出かけた後、雨が止みました。

スライド 19

構造理解を抜きにした意味理解

John is a help dog.の意味は？
→ ジョンは介助犬だ。

「is」の意味は何？
→ 『～は』

19

スライド 20

ワークシートの工夫

英語と日本語との語順の違いの具体的認識
主語に下線、述語動詞を○で囲む

- ◆ 英語の語順の認識化
英文の意味のかたまりごとに縦線
- ◆ 認識レベルの順次拡大
単語ごと→句のかたまり→節のかたまり

文の構造と意味を視覚化

20

スライド 21

ワークシートの例

Lesson 1 Languages in the World <左に下線、右に○、斜線に...>
P.9

1 Today about six billion people live on the earth
and they use about 7,000 different languages.

2 Some languages have many speakers.

3 Chinese is one such language.

4 About 900 million people speak a variety of Chinese.

5 Other languages have very few speakers. *fewに注意!

6 Eyak, a language in North America, has only one speaker.

7 The value of a language is not the number of speakers.

today	_____
about	_____
billion	_____
people	_____
live	_____
the earth	_____
use	_____
different	_____
some	_____
language	_____
have	_____
speaker	_____
Chinese	_____
such	_____
million	_____
speak	_____
a variety of	_____
variety	_____
other	_____
*some, other	_____
few	_____
Eyak	_____
North America	_____
value	_____
number	_____

21

スライド 22

1 Today
about six billions people
live
on the earth
and
they
use about 7,000 different
languages.

22

スライド 23

対訳シートの例

日本語-英語 対訳ワークシート Lesson 1

1	こんにちは、およそ60億の人々が暮らしています 地球上に	
	そして 彼らは 使っています	
	約7000の異なる言語を。	
2	いくつかの言語は 持っています	
	多くの話し手を。	
3	中国語は ~です	
	ひとつのそのような言語。	

23

スライド 24

英語の原文も工夫次第で読める

Sometime ago in Calcutta we had great difficulty in getting sugar, and I don't know how the word got around to the children, a little boy of four years old, a Hindu boy, went home and told his parents:

"I will not eat sugar for three days. I will give my sugar to Mother Teresa for her children."

24

スライド 25

ワークシートの例：英語が苦手な生徒が多い場合、意味の単位を小さく区切り、単語の意味を確認しながら納得して理解するよう工夫する。

1 some time 2 ago (Sometime ago) (in Calcutta) we (had) 3 great 4 difficulty 5 get 6 sugar (in getting sugar),

and I (don't know) <how the word 7 how 8 get to 9 around to the children>,

10 Hindu a little boy of four years old, a Hindu boy. (went home)

11 told 12 parents and (told) his parents: "I (will not eat) 13 will not eat 14 eat 15 for~ sugar (for three days).

I (will give) 6 give my sugar (to Mother Teresa) 17 for~ (for her children)."

→授業のユニバーサルデザイン化 25

スライド 26

学び直しシート例

日本語を英語に直してください。

昨夜Mステをみた。
(私は ~を観た Mステを 昨夜)

私達は毎日お弁当を持ってくる。
(私達は ~を持ってくる お弁当を 毎日)

学校は8:45に始まる。
(学校は 始まる ~に/8:45)

~を観る watch~
Mステ Music Station
昨夜 last night
~を持ってくる bring
お弁当 a lunch
学校 School
始まる begin/start
~に at-
掃除する clean
教室 class room

26

スライド 27

学び直しの成果一 Aさんの例

「昨夜私はテレビでミュージックステーションを見た」
"Last night saw music station TV." (1年生4月)

↓

3年生1学期中間テスト「テーマを一つ選び、それについて50ワード以上の英文を書きなさい」

「My hobby is reading comics. I like (a) love story very much. The all people who be (are) in the story I read will (be) happy. I like happy end very much. I like the comic(s) what(which) have "gyag coma". I don't like the comic(s) if it(the) comic(s) don't have "gyag coma".」

27

スライド 28

授業では、じっくり考えて理解することを促す

↓

「学習上に困難を抱えている」ように見えた生徒たちが、英文制作や英語による発表に挑む

↓

英語科学年教科書統一化
(2012年度から)

28

スライド 29

“参加”の意識が生徒の力を引き出す

教材への共感一例：「独裁者」

"I'm sorry, but I don't want to be an emperor. That's not my business. I don't want to rule or conquer anyone. I should like to help everyone if possible —省略、

"Do not despair.... liberty will never perish."
"Let us fight for a world of reason. A world where science and progress will lead to all men's happiness. Soldiers, in the name of democracy, let us all unite!"

29

スライド 30

“I”を主語にして自分のことを語る

「~を書きたい、書こう」という気持ちを引き出す

作品例：「制服が必要ないという意見に対してあなたの意見を書いてください。」

"I disagree with that opinion. First, we are not annoyed about what to wear and it doesn't take time to choose private clothes. Next, we wear school uniform and people understand 'Sonobe high school student!' I was said to see my school uniform, 'Are you school student?' I said 'Yes'. So I think that school uniform is important to us. And I like Sonobe high school's uniform the best."(SBコース2年生)

30

スライド 31

“I”を主語にして自分のことを語る
「～を書きたい、書こう」という気持ちを引き出す

作品例：インタビューテスト「Self Introduction」（高校2年生5月）

Nさんの作品
My name is Fuki Nakano. I'm 17 years old.
My family has 5 members and 1 dog, whose name is hazuki.
I has a part-time job after school in Shimoyama Supermarket.
I work on Sunday, Thuseday, Wednesday and Stersday.
My favorite is go to live. I'm good at dancing.
I learned dancing when I was in elementary and junior high school. My favorite singer is Sadie of visual- kei Rock band.

スライド 32

“I”を主語にして自分のことを語る
「～を表現したい」という気持ちが学習への意欲を育てる

作品例：インタビューテスト「My Future Plan」（高校2年生2月）Nさんの作品

My name is Hatada Moko. I like getting hair cut, because I like changing hair style. I want to enter technical college after I graduate from this high school and I want to be hair dresser in the future.
It is because I want to make smiling a lot of people. So to make my dream come true, I listen to my hair dresser talk about her experience.

スライド 33

Interview ルーブリック

The Interview Test						
	5	4	3	2	1	weight
Volume	Just around 30 seconds	Between 20 - 25	Between 10-15	Less than 10	No performance	x 6 = 30
Delivery	Very good delivery. Very expressive. Good voice. Full eyecontact.	Good delivery. Expressive. Good voice. Good eyecontact.	Good voice.	Speaking reluctantly	Speaking very little English	x 6 = 30
Answer	Response to all the questions in good sentences	Response to almost all the questions in sentences with a little bit mistakes	Try to response to the questions in sentences	Try to response to the questions with words	Hardly able to answer the questions	x 6 = 30
English	Perfect sound of every consonant.	Good sound of every consonant. Showing some effort.	Good sound of almost half of the consonants.	Having a lot of mistakes.	impossible to understand	x 2 = 10
Full score						50

スライド 34

協働的な学び

- ◆一定の教科内容を先に理解した生徒が まだ理解していない生徒に教えるという活動ではなく、
- ◆生徒たちが互いに同じ高さの目線で協力し合う学習活動

スライド 35

まとめ

- ◆本質的問いを前提とするパフォーマンス課題は、生徒の授業への参加を具体的に促す。
- ◆“I(私)”を主語にした学習行為や気づきが、学習を主体的なものにしている。
- ◆適切な目標設定の下で学習者の立場に立って構成される授業は、学習者の力を従来の予想を超えた形で豊かに発揮させる可能性を持つ。

スライド 36

学力を育てる
新たな授業と
カリキュラム

パフォーマンス
を育てる

評価で

理解をもたらす
カリキュラム設計

「進め設計」の理論と方法
UNDERSTANDING by DESIGN

